



切磋琢磨

【第3号】 令和8年7月16日(木)

金沢の3年生恒例の観能教室!!

金沢市の中学3年生を対象とした「観能教室」は、金沢市教育委員会が主催する伝統行事です。市内全校の生徒が「石川県立能楽堂」に集まり、加賀宝生の能「羽衣」や狂言「附子」などを鑑賞し、地域の誇る伝統文化を深く学んでいます。

7/9(木)「石川県立能楽堂」に足を踏み入れた途端、冷房の冷氣とともに歴史と伝統の空気感が伝わってきました。狂言「附子」と能「羽衣」鑑賞後の各クラスの生徒の感想を紹介します。

<1組男子>

能とか狂言はテレビとか動画で見たことはあったけど、生で見るのは初めてでした。空気感とか迫力とかがやっぱり生で見るほうがすごいと思いました。狂言はすごく話しに引き込まれて狂言師の方の話術とか人を引き付ける力がすごいと思いました。能は少し神秘的で美しかったし、演奏の方々も音とか状況に合わせていてすごいと思いました。舞も美しくて驚きました。

<2組女子>

私は、観能教室を通して特に、狂言の面白さを知ることができました。太郎冠者と次郎冠者の掛け合いや途中の太郎冠者の裏切り、最後ふたりとも泣いているのが面白かったです。また、最初のインタビューを通して能の横笛は笛によって音が異なることを知れました。能の舞が美しかったです。とてもいい経験ができました。ありがとうございました。

<3組男子>

狂言では物語を、能では歌舞伎劇を楽しむことができました。附子といわれていたものが砂糖で面白いなと思いました。砂糖の取り合いのところでは笑いが止まりませんでした。能は演者さんの衣装がかっこいいなと思いました。それと演奏もきれいですすごいと思いました。

<4組女子>

私は初めて能、狂言を鑑賞しに行きました。特に面白かったのは狂言の中の砂糖を食べて取り合うのを繰り返していたところ、そして泣く、怒るなどの感情を大きく表現していたところです。また、あおげあおげのところは事前に授業で学習していたので、わかっている分とても面白かったです。能は何種類か楽器があって音を出すタイミングが各楽器それぞれ違ったのにいい感じに合っていてどんな風に連携しているのかと疑問に思いました。



石川県立能楽堂入り口



能舞台



笛奏者にインタビュー